

7 職住共存地区のまちづくりに向けて

都心におけるまちづくりでは、住民、企業、行政など様々な主体が関わっています。これらの主体はそれぞれに異なる価値観や権利を有していますが、地域において共存していくためには、相互理解・相互協力が必要となります。

そこで、これからのまちづくりにおいては、住民、企業、行政が、相互に連携しながら役割を持ち、共有する目標の実現に向けて、それぞれが多様な活動に主体的に取り組む「パートナーシップ型まちづくり」を展開していくことを目指します。

都心の再生を目指して、パートナーシップ型まちづくりの輪を広げていきましょう。



▲まちづくりイベント（ワークショップ）の風景

まちづくり活動のチェックポイント

①社会経済的条件

社会潮流や経済条件からみてこの取り組みは妥当なのだろうか？

- 目的や効果をもう一度考えてみよう。
- 既に実行されている事例なども研究しよう。

②ルール、マナー

事業を始めるが、地域の人々のくらしに影響はないだろうか？

- 常に、周りの住民や事業者とコミュニケーションをとろう。
- 一方的な自己主張だけでなく、共に検討していくマナーと相互理解のルールを探ろう。

チェックポイント!!

③事業構造

アイデアは良いとしても事業として成り立つのだろうか？

- 専門家に相談して事業採算性を確かめてみよう。
- 関係者の予算、負担の限度について予め合意しておこう。

④まちづくりの手法

検討成果を活かす状況（都市環境、法的基盤等）は整っているだろうか？

- 公共施設などは行政と一緒に考えよう。
- 専門家や同じ活動をしている先行グループを紹介してもらおう。

～パートナーシップ型まちづくりの推進～

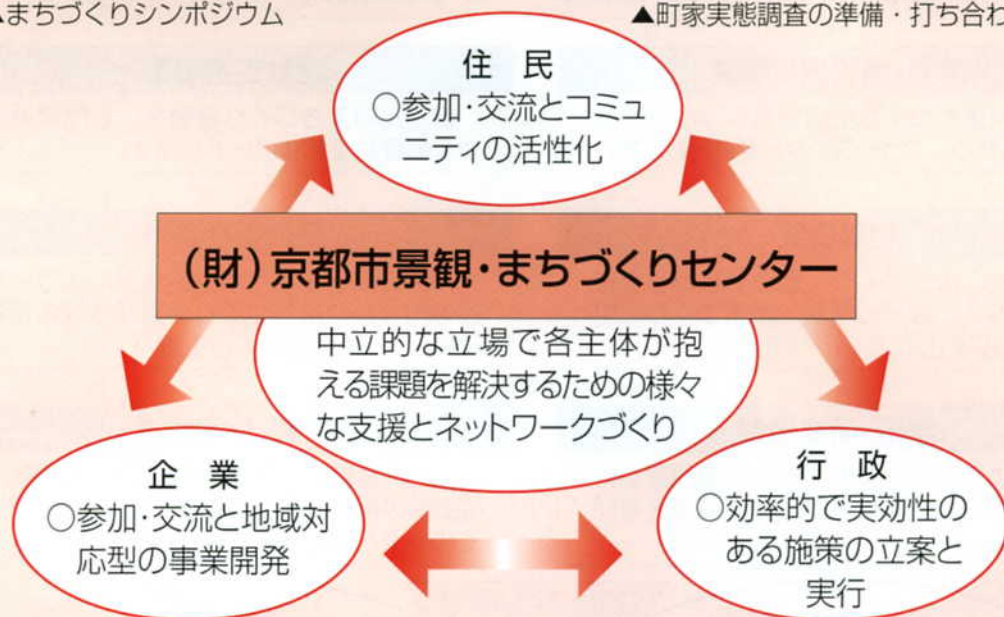
パートナーシップ型まちづくりの橋渡し役を担う(財)京都市景観・まちづくりセンター



▲まちづくりシンポジウム



▲町家実態調査の準備・打ち合わせ



まちづくりの取組ステップ

以下のような3つのステップを繰り返しながら、まちづくりを具体化させていきます。必要に応じてまちづくりの専門家がお手伝いします。

